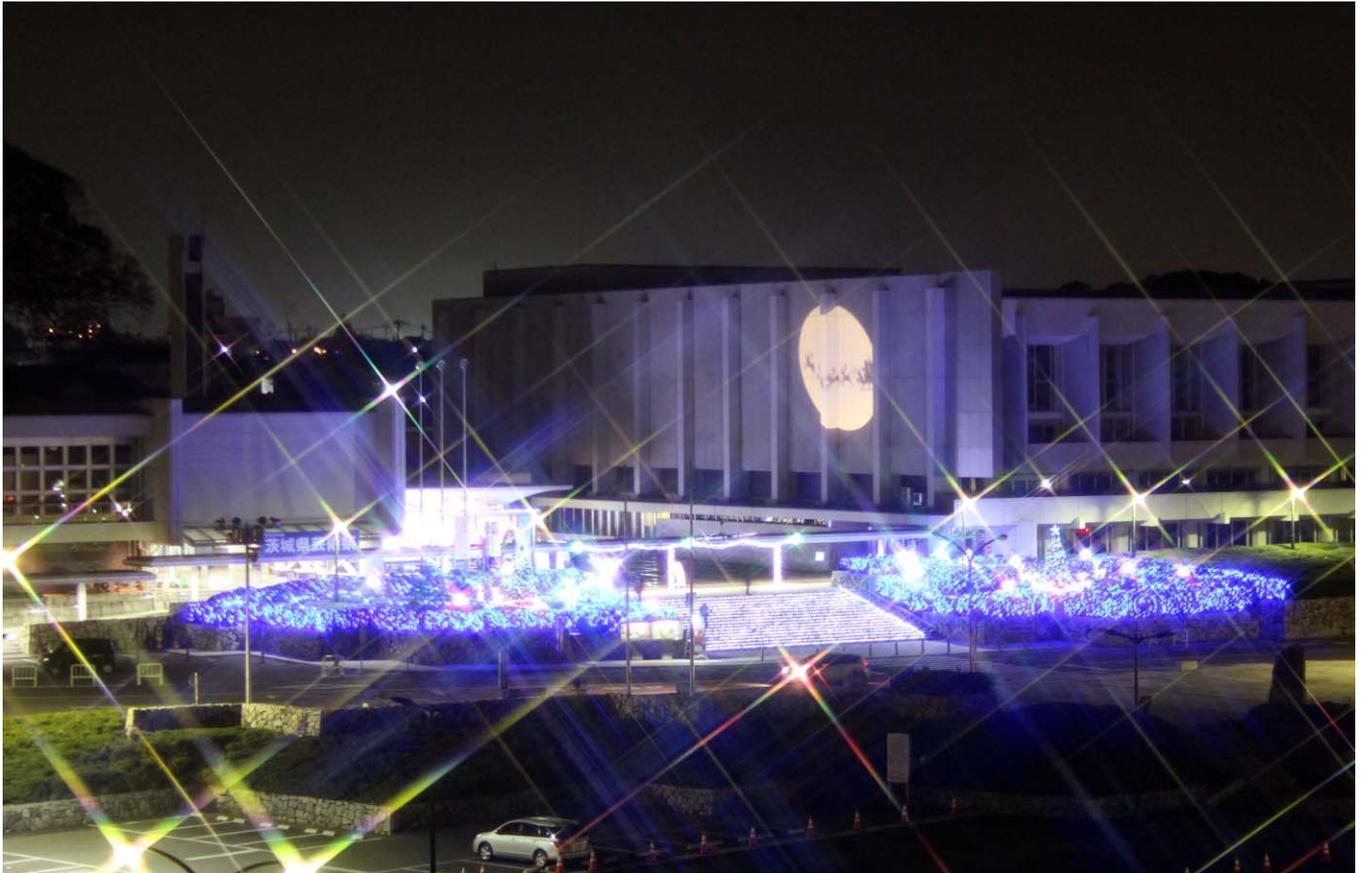


# 民児協いばらき

☆民生委員・児童委員徽章は、幸せのクローバーに「み」の文字と双葉で鳩をかたどり愛情と奉仕を表しています。

2016年(平成28年)1月15日 第76号



(第15回茨城県立県民文化センターイルミネーション)

## 目次

- 新春のごあいさつ(会長) ..... 2
- 第34回県民生委員児童委員大会が開催される... 2
- 新年あいさつ(知事) ..... 3
- 全国民生委員児童委員大会に参加して..... 3
- 民生委員・児童委員のための  
相談技法研修会に参加して..... 4
- 全国主任児童委員研修会に参加して..... 4
- 県民児協開催の研修会報告..... 5
- 地区民児協だより
  - ・ 那珂市..... 6
  - ・ 神栖市..... 6
  - ・ 守谷市..... 7
  - ・ 八千代町..... 7
- 事務局だより..... 8
- 編集後記..... 8

広げよう 地域に根ざした 思いやり

## 新春のごあいさつ



県民児協会長 鯨井 登美子

新年あけましておめでとうございます。  
委員の皆様には、希望に満ちた

新年をお健やかに迎えのことに存じます。

最初に、昨年の鬼怒川決壊等に伴う未曾有の災害で被災された民児協の委員の皆様に、心からお見舞いを申し上げます。被災地での支援者の安否確認や避難所への誘導などの支援活動に当たられた委員の方も多かったことと存じます。懸命に支援活動にあたる皆様のお姿を思い浮かべ、唯々感謝の思いでいっぱいでございます。

今回の災害では、自然は大きな力で私たち人間を圧倒することを改めて思い知らされました。しかし、人に優しさや潤いを与えてくれるのもまた自然でございます。自然を素直に受け止める心も忘れずにいたいと存じます。

平成29年には、民生委員制度創設一〇〇周年を迎えます。原点は、

岡山県に設置された濟世顧問制度「防貧活動」と大阪府で始まった方面委員制度「訪問活動」により具体的な要望を探し出す」ことにありますし、その後も一貫して、地域に根差した活動の中で生活困窮者の支援にかかわってまいりました。今、改めて生活困窮者に心を寄せ、原点に込められた思いをかみしめてみることも大切なことかと考えております。そして、これからも地域とともに活動する私たち民生委員・児童委員でありたいと考えております。

結びに、今年も県民児協事業へのご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

## 第34回茨城県民生委員児童委員大会が開催される

県民児協理事 井上 充 宏

第34回茨城県民生委員児童委員大会が10月29日、茨城県立県民文化センター大ホールにて開催されました。

式典に先立ち、タレント・リポーターとして活躍されている林家まる子氏による「ピンチはチャンス! 楽しく生きるヒント」と題して講演が行われました。

氏の父は、故初代林家三平の弟子で、子ども時代は貧しく大変辛い思いをしたそうです。やがて自分も芸能界入りを目指したが、修行中は上下関係が厳しく何度もなくじけそうになったそうです。しかし、「人生は勝負、負けてはいけない」という父の言葉を信じ、「芸能界の土俵で勝負してやる」という気力を持ち続けてきたために今日があるとのことでした。

また、氏は「いばらき大使」として茨城県の魅力度向上にも努めておられるとのことで大変ありがたいと思いました。

ユーモアたっぷりの話術で時間のたつのも忘れ、楽しく拝聴することができました。

式典では、国歌斉唱、物故された9名の委員に対する慰霊黙とう、鯨井会長の主催者あいさつの後、顕彰が行われました。茨城県民生委員児童委員協議会会長表彰40名、全国民生委員児童委員連合会会長表彰13名、優良民生委員児童委員協議会表彰1団体がそれぞれ受賞しました。

続いて来賓祝辞、受賞者代表謝辞が行われ、最後に大会宣言が満場一致で採択され大会を終了しました。



# 新年あいさつ



茨城県知事 橋本 昌

あけましておめでとございます。民生委員・児童委員の皆様には、日頃から地域住民の方々に對する様々な相談や援助活動を通して、社会福祉の向上に多大なご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、関東・東北豪雨の発生など、大変な一年でありましたが、一方で企業の立地が順調に進みますとともに、G7科学技術大臣会合のつくば開催が決定されるなど、明るい話題もありました。

本年は、災害に強い県土づくりとあわせ地方創生に全力で取り組んでまいります。

まず、広域交通ネットワークの整備や企業誘致、海外展開を含めた中小企業や観光の振興、農業の6次産業化や農産物の輸出、UIJターンの促進や県北地域の振興などに力を注いでまいります。

また、結婚・出産・子育て支援

や地域医療の充実、高齢者の健康・生きがいづくりや障害者の自立支援、公共交通や生活支援サービスの確保などを進めてまいります。

さらに、少人数教育や理数教育・国際理解教育の推進など、我が国の将来を担う人づくりに取り組みますとともに、女性や若者が活躍しやすい環境づくりや文化の振興などに力を入れてまいります。

本年は一斉改選の年に当たりますが、民生委員・児童委員の皆様におかれましては、引き続き地域福祉の推進役として、本県の社会福祉の向上のため、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

茨城県民生委員児童委員協議会の更なるご発展と、皆様の益々のご健勝、ご活躍をお祈りいたしまして新年のごあいさつといたします。

## 全国民生委員児童委員大会に参加して

県民児協評議員 青木 忠次

第84回全国民生委員児童委員大会が10月15日～16日の2日間、富山県富山市・高岡市において開催され、全国から3404名の民生委員・児童委員が参加し、盛大に開催されました。本県からは、鯨井会長以下24名が参加いたしました。

初日は、オープニングとして「福

光もちつき太鼓」で幕を開け、式典に移り、富山県民児協会長の開会あいさつ、主催者あいさつがありました。続いて、全民児連会長から優良民生委員児童委員協議会などの表彰があり、本県では、龍ヶ崎市愛宕地区民生委員児童委員協議会が受賞され、永年勤続では、県民児協から14名が表彰を受けられました。

式典後の特別講義は、富山県生まれで熊谷組相談役の太田弘氏から「クロヨンが遺したものの―志の連鎖―」と題して講話があり、いろいろな苦難を乗り越えて「心が一つになった」とお互いが「感謝

と信頼の輪」で結ばれたそうです。2日目は、10の分科会の活動交流集会在各会場に分散し開催されました。

私は、第二分科会の「障害者が生活しやすい地域づくりのため」と題したテーマに参加し、多くの委員とともに、講義と事例発表を傾聴いたしました。

コーディネーターの上智大学教授・大塚晃氏より、わが子が障害者であり、共に子育てをしてきた体験の講話がありました。



民生委員・児童委員のための

相談技法研修会に参加して

城里町民児協会長 園部良夫

平成27年度民生委員・児童委員のための相談技法研修会が、8月27日～28日まで、全国から148名が参加して新横浜国際ホテルにて開催されました。

1日目は、元梅花女子大学准教授の植田寿之氏による「相談援助の視点と態度」の講義を受けました。その中で、「暮らしを支える視点」では、①特定できない生活問題の原因。例えば、医者とは具体的な検査で特定するが、われわれは特定できない。②関係のバランス改善のための援助では、自然・社会・物・人の環境の中で、しっかりと全体を見ることが重要である。③当事者のニーズを捉えること。その人が必要としているニーズ、その人が求めていることをしっかりと捉えること。自分で何ができるかを考えることが大切であることの講義を受けました。

その後、「相談・支援活動のポイント」のDVD学習後、民生委員としての問題点について話し合いました。



2日目は、「相談援助の原点と本質」の講義を受け、支え合うということが原点であるということをお話されました。

最後に、「相談面接技法」の講義を受け、グループに分かれて相談面接のロールプレイを行い、各グループから結果の発表がありました。

2日間にわたり、相談技法を研修し、今後の活動に生かしたいと思えます。

全国主任児童委員研修会に参加して

筑西市主任児童委員 染谷法子

平成27年8月31日～9月1日、平成27年度全国主任児童委員研修会(東日本)が横浜市の新横浜プリンスホテルにおいて、293名が参加して開催されました。

1日目は、行政説明を厚生労働省の松村智史氏が「児童福祉の動向と児童委員の活動」と題して、児童虐待防止や子どもの貧困対策等について話されました。

その後、明治学院大学教授の松原康夫氏から「子ども、子育て家庭をめぐる課題と主任児童委員の活動」の講義がありました。シンポジウムでは、「子どもたちの健全やかな育ちを支えるために」をテーマに、3人のシンポジストの発表がありました。栃木県の社会福祉法人養徳園の福田雅章施設長から「不適切な養育環境にありながら、社会的養護の網から零れてしまっている子どもたちが沢山いて、虐待が認知されても、保護される子どもは一部に過ぎない」という報告には大変共感を覚えしました。

2日目の分散会は、「課題を抱



える子どもにとって身近なおとなになるために」をテーマに、関西学園大学教授の前橋信和氏から講義がありました。主任児童委員は日ごろから課題を抱える子どもたちにはアプローチし、顔見知りになり、一住民として生活圏に根ざした専門職としての活動が必要というお話でした。

2日間の充実した研修を生かし、「子どもが安心して豊かに育つことができる街」の推進のために努力していきたいと思えます。

県民児協開催の研修会報告

市町村民生委員児童委員協議会  
会長・副会長合同研究協議会

平成27年度会長・副会長合同研究協議会が、県北・県央・鹿行ブロック(6月11日、12日) 県南・県西ブロック(6月18日、19日)の2回に分け、43市町村366名が参加して、大洗シーサイドホテルにおいて開催されました。

1日目は、3単位民児協(11日 高萩市・東海村・神栖町、18日 つくばみらい市・河内町・結城市)における活動発表、続いて、泉恵造研修企画工房代表社員・泉恵造氏による「ご近所付き合いの達人をめざそう!」単位民児協正副会長としての活動を見つめながら」と題して話されました。

2日目は、県福祉指導課(生活困窮者自立支援制度について)、子ども家庭課(子どもの貧困等について)、長寿福祉課(知って安心認知症)からの行政説明があり大変有意義な研修でした。



市町村民生委員児童委員教室



平成27年度市町村民生委員児童委員教室が、県北・県央・鹿行ブロック(7月9日、10日)、県南・県西ブロック(7月16日、17日)の2回に分け、44市町村362名が参加して、大洗シーサイドホテルにおいて開催されました。

1日目は、KIT福祉研究所・松藤和生氏による「民児協の組織運営の課題と中堅委員・リーダーの役割」と題して話されました。続いて、3単位民児協(9日 大子町・那珂市・鹿嶋市、16日 利根町・坂東市・八千代町)における事例発表がありました。

2日目は、県福祉指導課(生活困窮者自立支援制度について)、子ども家庭課(子どもの貧困等について)、長寿福祉課(知って安心認知症)からの行政説明があり、大変有意義な研修でした。

主任児童委員研修会

平成27年度主任児童委員研修会(9月4日)が、44市町村313名が参加して、茨城県総合福祉会館において開催されました。

県子ども家庭課から「子どもの貧困等について」の行政説明のほか、桜美林大学専任教授・大溝茂氏を講師に招き、『主任児童委員活動への期待と課題を考える』地域における「子どもの生活」と「権利保障」とお話し」と題して話されました。続いて、3地区(日立市・鉾田市・阿見町)代表者から活動報告があり、大変有意義な研修でした。



平成27年度民生委員・児童委員  
全体研修会



平成27年度民生委員・児童委員全体研修会(10月29日)が、43市町村1051名が参加して、県立県民文化センターにおいて開催されました。

桜美林大学専任教授・大溝茂氏を講師に招き、「民生委員児童委員活動をめぐる状況と今日的役割」民生委員制度創設一〇〇周年に向けて地域福祉の推進を考える」と題して話されました。続いて、県福祉指導課から「生活困窮者自立支援制度について」行政説明があり、大変有意義な研修でした。

# 協 だ よ り

## 那珂市

### 連合と地区民児協の活動について

那珂市瓜連地区民児協委員 加藤木 捷 洋

那珂市連合民児協は、合併から連合体制として第一地区民児協、第二地区民児協、瓜連地区民児協の3つの民児協で構成され、民生委員・児童委員、105名で活動しています。

それぞれの民児協の活動状況を相互に理解を深め、情報の共有化を図る「民児協だより那珂」を毎月発行し、日常の行事や地区研修の内容等を紹介しています。

全体で行っている総会、地区の報告や、1月の新年会を兼ねた定例会、各地区委員の合同の事項別研修等を行い、委員相互の親睦を深めています。

瓜連地区民児協は、民生委員・児童委員、24名(うち主任児童委員2名)で活動しています。

定例会は、連合民児協から割当された月毎に、福祉関連施設の視察研修や、行政による福祉関連の種々の説明、講義を受け、活動の資としています。今年も、生活困窮者自立支援制度について講義を受けました。

学校との懇談においては、虐待・いじめ・不登校等の諸問題を話しあい、問題発生情報を早期に入手・交換し、未然防止に努めています。また、登下校の子どもたちの安全、防犯の見守りにもあたっています。

当地区は、赤十字奉仕団と関わりが深く、学校の福祉体験学習の指導支援を行い、イベント等では、炊き出し訓練も行っていきます。



## 神栖市

### 神栖市神栖地区民児協活動について

神栖市神栖地区民児協会長 今 郡 利 夫

神栖地区民児協は、定数67名(うち主任児童委員3名)の委員で構成されており、日々活動しています。

毎月10日に行う定例会では、生活保護制度や介護保険、社会福祉協議会等について、民生委員活動に直接関わってくるものを中心に、知識習得と資質の向上を目的に全体研修を行っています。

また、5分野に分かれた事項別委員会を設け、各委員会では、毎年、独自で研修計画を立て、それぞれ研修を行っています。内容としては、市内の特養施設や障害者施設への訪問、公証役場から講師を招いての研修等さまざまです。

今年度は、認知症の方に対して民生委員として何ができるのかをテーマに各委員会で話し合い、意見交換を行いました。そしてこの時の貴重な意見や情報を民児協全体で共有し、民生委員としての活動の幅をさらに広げました。

近年は、民生委員活動強化月間の一環として、市で開催される「かみすフェスタ」に参加し、民生委員活動のPRのため、パンフレット等の啓発物品を配布したことは、民生委員としての仕事や活動内容を地域の方々に知っていただく良い機会になったと思っています。

今後も、地域住民の身近な相談役、行政関とのパイプ役として、地域福祉の推進・向上につながる活動に努めていきます。



# 地 区 民 児

## 守谷市

### 守谷市民児連合協の活動について

守谷市民児連合協会長 村田 昌

守谷市は、2002年に単独で市制施行され、3年後にはつくばエクスプレスが開業し、県内外から多くの方が転入され、人口の増加に伴い児童数も多く、急激に発展した市です。

民児連合協は、3つの単位民児協からなり、現在91名(うち主任児童委員5名)で活動しています。

主な事業としては、年3回の定例会、学校との話し合い、敬老会・健康ふくしスポーツフェスティバル・歳末助け合いなど市の事業への参加・協力です。特に、学校との話し合いは、家庭や地域での課題や問題について情報を共有し、早期に解決するための第一歩として、毎年6月に力を入れて実施しております。

また、単位民児協によって行動に差が生じないよう整合を図りながら、日々の活動を行っております。

今年、「民生委員児童委員活動強化週間」の取り組みの一環で、市の広報紙に活動紹介を一面両開きで掲載したところ、多くの市民から反響がありました。

単位民児協の課題と取り組みについては、前回の一斉改選で、2地区で委員の半数が交替したり、地域で多種多様な課題が増えたりしていることから、委員相互の相談支援体制と環境づくりに取り組みました。

具体的には、毎月開催している定例会で、知識を高めるため学習会や地域の課題や問題の解決に向けた話し合いを重ねております。

守谷市も高齢化などが進む中、今後も委員相互の理解と協力を得ながら、地域における様々な課題や問題の解決に役立つよう活動して行きたいと考えております。



## 八千代町

### 八千代町民児協の活動について

八千代町民児協協会長 青木 忠次

八千代町民児協は、男性18名、女性32名(うち主任児童委員3名)の計50名から成り、平成25年の改選で23名が入れ替わりました。

毎月の定例会では、行政の福祉サービスの内容や申請の仕方など民生委員活動に必要な知識の勉強や、マイナンバー制度など近年めまぐるしく変わる社会保障制度についての研修をはじめ、事項別研修、地区別討議等で活発に意見を交わし、課題解決のための情報共有をしております。

4月の総会と11月の視察研修は、1泊の現地研修という形で行い、委員相互の連携と親睦を図っております。

また、毎年10月には、民生委員手作りのイベント「ひとり暮らし高齢者との交歓会」を開催しています。歌謡ショーや踊り、地元保育園児との触れ合いなどを企画し、ひとり暮らしの高齢者が孤立しないよう交流の場を設けています。参加者には毎年好評で、八千代町民児協の一大イベントとなっております。

少子高齢化をはじめ、社会構造の変化により地域の抱える課題は増え続けています。八千代町は交通インフラや、医療機関の不足など物理的不安要素を抱えており、既存の社会資源を使ってこれらをどう克服していくかが課題となっております。

しかしながら、八千代町では比較的地域のコミュニティが残っており、民生委員の顔も見えやすい環境です。先頃、マイナンバー制度も施行され、個人情報保護の気運が高まるなか、行政の介入が困難な事例も増えていきます。住民の身近な相談役として、また、行政とのパイプ役として、民生委員の存在がますます重要になっていくと感じます。



# 事務局だより

## ●平成27年9月関東・東北豪雨 災害に際して

昨年の台風18号の影響等による記録的な大雨に伴い、お亡くなりになられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害を受けられました地域住民の皆様にご心からお見舞いを申し上げます。また、被害を受けられた民生委員・児童委員の方々もたくさんいるかと思いますが、そういったなか、住民の方々の民生委員・児童委員による支援活動に対し、改めて敬意を表する次第であります。

皆様におかれましては健康に十分留意されまして、今後とも安全な活動をお願いいたします。



## ●一斉改選を迎えるにあたって

今年、3年ごとに行われる民生委員・児童委員の一斉改選の年です。これからの12月までの期間に、さまざまな準備が必要となります。

この準備は、退任委員と新任委員における活動の引き継ぎだけではなく、民児協としても、これまで進めてきた活動を振り返り、新たな体制のもとで活動を進めて行く出発点となります。特に、福祉問題の解決は時間を必要としますので、常に継続した対応が要求されます。こういったことを踏まえ、民児協の皆様には、早めの準備をお願いいたします。

## ●民生委員・児童委員活動保険 における事故受付状況報告

民生委員の皆様が、安心して日々の活動を行うことができるよう、保険制度が平成26年4月スタートしてから2年目を迎えました。今年度も活動中における事故等が全国(9月末現在)で、207件発生しております。うち茨城県は、4件発生しております。今後とも、安全な活動に心がけてください。

## 県からのお知らせ

### ▼避難行動要支援者への支援について 県福祉指導課

東日本大震災や先般の関東・東北豪雨災害などの大規模災害では、高齢者や障害者などで自ら避難することが困難な「避難行動要支援者」に対し、円滑かつ迅速な支援を図る必要があります。

災害対策基本法は、避難行動要支援者への避難支援等を実施するための基礎となる「避難行動要支援者名簿」の作成を市町村に義務づけています。また、名簿を作成した市町村には、避難支援等関係者と名簿情報との共有を図るとともに、要支援者ひとりひとりの避難計画(個別計画)を策定することが求められています。

日頃から高齢者や障害者等に対する訪問活動や相談援助を行っている民生委員・児童委員の皆さまには、特に個別計画の策定において、市町村等と連携しながら、中心的な役割を果たしていただくことが期待されています。市町村から個別計画策定に関する協力の依頼等があった場合には、ぜひ積極的にご協力くださいますようお願いいたします。

## 編集後記

県内のある地区で、「地域福祉五年計画策定」のための住民アンケートが実施された。そのアンケート項目に「地域福祉に関する社会資源の認知度」の質問があり、その中に「民生委員・児童委員」の認知度調査があった。

回答結果は、「あなたの居住地の民生委員・児童委員を「知らない」が59.5%、「知っている」が33.0%」と集計されている。

認知度に関して地域差があると考えられるが、今年11月には、「民生委員・児童委員の一斉改選」が実施される。地域の住民に対して「民生委員・児童委員」の存在意識と活動内容を理解してもらう対応策が望まれるのではないだろうか。

編集委員 竹内昌信

発行人  
一般財団法人  
茨城県民生委員児童委員協議会  
会長 鯨井登美子

〒310-0851  
水戸市千波町1918  
茨城県総合福祉会館内  
TEL 029-243-5361  
FAX 029-243-5902  
URL: <http://www.ibaraki-minjikyo.or.jp>  
E-mail: [iba-minjikyo@bz01.plala.or.jp](mailto:iba-minjikyo@bz01.plala.or.jp)